

教育と文化

みんなで
考えよう
同和問題
人権 No. 257

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

● 問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 3186

みんなで心のウイルスを退治しましょう

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いています。このウイルスが社会のつながりを壊すやっかいな「3つの感染症」を引き起こしていることを知っていますか。

1 つ目の感染症は『病気』そのものです。重症化すると肺炎を引き起こすことがあります。2 つ目の感染症は『不安』です。『うつる』という不安から恐怖を感じてしまいます。3 つ目の感染症は『差別』です。『うつされる』と見なした人を遠ざけようとして差別が生まれます。

例えば、感染者の詮索や、さまざまな理由でワクチン接種を受けることができない人、接種をしない人に向けられる偏見のまなざしなどは、心がウイルスに侵された症状と言えるのではないのでしょうか。恐怖から逃れたい気持ちは、人が生き延びようとする本能なのかもしれません。

しかし、その感情を『差別』につなげることは絶対に許されません。なぜなら、ウイルスへの感染は誰にでも起こり得ることだからです。

差別が広がると、発熱や咳などの症状があっても、差別を恐れて病院へ行くことをためらう人がいるかもしれません。これは病気がまん延することにつながります。『病気』が『不安』を呼び、『不安』が『差別』を生み、『差別』が『病気』の拡散を招くという『負の連鎖』が起きてしまうのです。「もし自分が感染したら」、「大切な人が差別を受けたら」と考えてみてください。言うまでもなく、自分がされて嫌なこととはしてはいけません。

『差別』の反対の意味を持つ言葉は『尊重』です。周りの人を思いやる、互いの温かい気持ち、差別という名の心のウイルスを退治する薬になるはずはです。

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ「埋葬遺構を中心として」⑬

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 1262

大光寺遺跡の近世墓群

(松浦町大光寺 平成2・3年調査)

大光寺遺跡の近世墓（江戸時代の墓）群では、12墓の墓を調査しました。

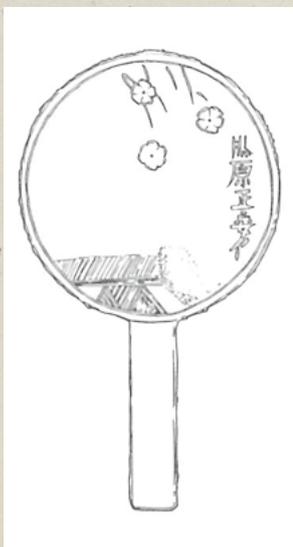
調査では、甕棺の中から一緒に埋葬されたものを確認しました。12墓のうち5墓の墓からは、銭が出土しました。おそらく三途の川を渡るときの渡し賃として入れられたものと思われます。ほかには、木製の数珠玉や生前使っていたと思われる煙管などがありました。

童子の墓2墓と童女の墓1墓があり、出土した骨の調査から、童子の墓には両方も3歳くらいの子が埋葬され、童女の墓には8歳くらいの子が埋葬

されてきました。

童女の墓からは、小さな柄鏡やガラスビーズの飾りと鈴が出土しました。柄鏡は、銅製で腐食していたためはつきりとはしませんが、背面にはしたれ梅と柴垣が描かれ、『藤原正安作』の銘がありました。

生前に使っていたものか、死出の旅立ちに親が持たせたものかはわかりませんが、かわいさを感じると、子を思う親心を感じさせるものです。



↑ 出土柄鏡実測図（背面）
長さ 10.6 cm